

東近江市市民協働推進委員会

## 「東近江市協働ラウンドテーブル 意見シート」まとめ

○第2回委員会では「協働ラウンドテーブルのしくみ」について、意見交換がされたが、「協働ラウンドテーブル」を行う、範囲が広く想定され、現実的でない範囲までの議論となり、「しくみづくり」について具体的な議論が十分には出来なかった。・・・まずは、具体的に考えられる「協働ラウンドテーブルについてのしくみ」について議論を行い、その後、想定されるケースについての議論を行えば・・・全体像が見えてくるように思った。

○当面必要な作業は、協働していかなければならないと思われる課題の抽出

その道筋として

1. 市民の声が大事＝市民からの苦情・疑問

→つぶやきを拾う（理髪店等情報源となる方の協力を得る）

自治会等への苦情を整理する

2. 行政上の課題→行政各課に問い合わせ

というような話が出たように記憶しています。そこで、情報を拾ったり整理したりする者＝とりまとめる者（団体なのか個人なのか）が、誰か必要だと思いますが、これはラウンドテーブルとは別のものという話であったように思います。であれば、その役割を誰がするのが課題です。現状の組織を利用するのが一番良いように思いますが、しかし現状のままで行えば、今と変わらないので、そのためには現状の組織の方々に、その（ラウンドテーブルにのせるための）筋道を明示しておかなければなりません。当面は各地区の自治会・コミセンが手っ取り早いように思います。

その課題を検討するメンバー＝ラウンドテーブルのメンバーを立ち上げることとなるのですが、一気にラウンドテーブルのメンバーをそこそこ固めて、定期的の問題・課題の現状把握・意見交換の場をもうける方が良いのではないかと思います。（現在の推進委員の何人かで組織しても良いかと思います）先日会議の席でも話していたのですが、個人的考え方としては、全体を見渡しながら個別の問題を拾うようにしていった方が良いように思います。

その全体を見渡す一つの方法が、行政レベルのジャンルを糸口（窓口）として、そこから協働していかなければならない相手探しみたいことをしていくことがラウンドテーブルの役割とならないかと思っています。

行政の窓口単位で市民の声を拾う作業（理髪店に依頼も良いでしょう・市民へ調査する事もいいでしょう）をすることによって、その中から協働しなければならない課題の整理が出来、協働の方向へもっていくことが出来ると思います。とりあえずできることからとか、出てきた問題からのような多方向、多様性のある作業よりも、主たる分野を整理してからの展開の方が協働の枠をつくりやすいのではないかと思います。

○しくみは頭では、理解できています。実際今の時点で協働事例のモデルになるものを紹介していただくとありがたいです。今、幾つかの課題を持っています。解決にあたって、どのよう

な団体または行政の方と連携するといいいのか？そのあたりで相談できる窓口が欲しいです。

○コーディネーターを育てていく仕組みが必要なのではないのでしょうか？

○会議と並行に推進委員がアドバイザーになれるような講習会が必要ではないのでしょうか？

○第2回委員会では、グループ内でラウンドテーブルのしくみについて、自由に意見交換、議論することができました。東近江市内には多数の団体があり、ラウンドテーブルが機能する為には、既存の団体の長所とうまく繋がることだと思います、行政側でもなく、市民側でもなく、中立的な組織、例えば中間支援組織「まちづくりネット東近江」や「コミュニティセンター」などが中心となり、課題を議論・解決するのに有効なメンバーをラウンドテーブルに招集する。すべてを一から作るのではなく、他団体との繋がりを大切に考えたいです。

## 「(仮称)東近江市いきいき協働アワード 意見シート」まとめ

1. 優良事例を表彰する制度である(仮称)東近江市いきいき協働アワードについて、必要性や意味について、どのように思いますか？

○協働のまちづくりを推進していくためには必要だと思いますが、本年度から実施することについては、検討が必要だと思えます。個人的には、協働のまちづくりが地域に根付いて、多数の方が優良事業だと認められるようになった時点で実施すれば良いと思えます。

○欲張りだとも思いますが、小学生から高齢者までできる人は何らかのチームに入ってもらってみんながこの町をつくりあげたというようにしたいです。それには、その人たちの得意分野を知り、その得意分野の人たちをチームに分け、活動してもらいます。そこには、リーダーがいて、まとめやくやさんもいます。それは、一人ひとりが得意分野をもっていると思っています。それらを発揮できるようにひきだしていくことも必要だと思えます。

○内容は別として、意識の向上にはかなりの効果は期待できると思えます。この意識の向上の中にも様々な角度から期待できることがあると思えます。たとえば、推薦制度をとろうとすると、自らが関わっていなくてもそんな人や団体いませんかという周りに意識を持つことが生まれるので、住民全般への意識普及を期待できるように思えます。また、こんなアワード(賞でいいでしょうか)がある事を広報することで、これも住民全般への普及効果(協働とは何かを含めて、一般的な説明の場にもなる)ありであると共に、意識の高い人にとっては、賞を一つの目標に、より高い協働を目指す(実践)できる可能性があると思えます。

○協働の素晴らしさ、協働によって解決できる手がかりがつかめる等、成功すれば効果は必ず出てくると思えます。この活動が末長く続くようにする。

○活動情報をより広げる意味でも意義があると思う。また、それぞれの活動のモチベーションにつながる。ただし、なぜ選ばれたかの根拠、理由などを多くの人共感を得られる形で示せるものできたらよいと思う。選ばれたものの背景を知ることで、別な活動のヒントにできるものであってほしい。

○表彰する制度があることは、「協働」を知っていただく機会となり、今後の協働活動のきっかけになると思えます。まずは、「協働って何？」から始めるのも良いのではないのでしょうか。

○協働に対するイメージ、理解を高めて、経験してもらうのに有効な制度。

○表彰制度は大切に必ず必要である。褒めることによりグループ、個人の達成感が味わえ、更にやる気生まれる。まわりを巻き込めるきっかけのPR効果もある。

## 2. どのような事業・プロジェクト・活動・行事・制度を表彰すべきだと思いますか？

- 行政と地域が共に考え、お互いの良い所を出し合い、住民福祉の向上に成果をあげたプロジェクト
- 旧地域間の意識を払拭し、合併の成果を得るべき、地域間（まちづくり協議会等）の協働による新規のイベント・プロジェクト等
- 各種市民活動団体間で協働が行われ、地域包括ケアなどまちづくりに貢献された活動、事業など
- 『賞』は名前はちがえど、すべてのチームをたたえたいです。
- 一年ぼっきりのあるいは一回ぼっきりのアワードよりも、今回は△△、次は○○という感じで年に何回かとか、毎年の単位で、表彰ジャンル・単位などを変えるというのも良いかと思います。住民レベルの共同作業のイメージづくりにもなるように思います。  
さて、その対象ですが、大きな単位から小さな単位まで、協働作業のベースとなる主たる団体。個人単位でその規模にはこだわらないと良いと思います。ベースとなる単位の例として、企業活動・学校運営（その組織のためにされていると思いますが、この分野の協働を拾う事で多くの人へのヒントになる可能性があるのではないかとおもいます上からの分野として良いかと思います）内での取り組み（その単位がベースであってそこから様々な方向に協働の和が伸びている事もありうる）・地域単位での取り組み活動（集落自治会単位・小学校区単位など）・ボランティア/NPO（福祉＝高齢者支援/障害者支援/生活支援/・教育・災害などの）活動・各団体の取り組み（社協・体協・老人クラブ・女性会・青少年市民会議など）  
縦割りと言われるかも知れませんが、私の考えのベースは、基本的に行政の分掌の中に住民生活の全ての事が入っていると思っていますので、あえて、主たる分野の整理・枠組みとしてこのような発想になっています。意識しやすいスタートになると思います。ただし、あくまでも出発点の整理・枠組みという位置づけです。その後の展開は枠は取り払われていくべきです。
- 協働が、どの人にもはっきりわかる活動に対してしてほしい。また、その事業によって、住民が協働の素晴らしさを理解できるもの、共感できるものにしてほしい。
- 特に分野にしばられず、協働することにより、「一団体では出来なかったことができるんだ。」「今まであきらめていたことに取り組めるんだ!」、そんな協働しないと実現できなかったことに取り組んだ事業・プロジェクト・活動・行事・制度を表彰したいです。
- 協働に関する事業等。地道な活動を大切に（たくさんあると思う）。

3. どのような賞・部門があったら良いと思いますか？

【賞】

- 互助のまち協働大賞、未来に繋がる協働賞、協働コーディネート賞
- 『喜ばしたでしょう』『感謝されたでしょう』『楽しませたでしょう』『貢献したでしょう』
- 表彰の種類として、「実績」の表彰も良いですが、これからをイメージする「協働作業企画」（仮称・知恵比べ）アワードなんかもおもしろいのでは・・・
- 子どもたちと大人のコラボ、大学や高校と市民のコラボ、意外で驚きコラボ、東近江大好きコラボ、少子化解決コラボ、明日にコラボ
- みんなが応援したい活動への賞
- 深尾昌峰賞：他府県でも取り組んでいないような、先駆的な事例に対して
- 芽生えたで賞：小さな取り組みだけど、将来的に有望な活動に対して
- うまくいかなかったケースも表彰ということで：仮免許賞
- 協働したらいいのと思う団体を次年度以降巻き込むために：チャレンジタッチ賞
- 市長賞、委員長賞、ユーモア賞、アイデア賞

【部門】

- 地域間のコラボ部門、自治会間のコラボ部門 各種市民活動団体のコラボ部門
- 大人部門、子供部門、自治会部門、各種団体部門（学校を含む）

4. (仮称) いきいき協働アワードと名称になっていますが、他に良い名称を考えて下さい。

- 「共に考え、共に創る」未来につなげるまちづくり協働アワード
- 「共に考え、共に創る」まちづくり協働アワード
- 「この町が好き。あなたが主役」
- アワードという表現が一般的かどうかちょっとわかりません。聞いたことのない方にとっては、感心を持ってなかったりする気がします。単純に表彰の方が分かりやすいでしょうか。賞の名前としてアワードとつけるのは良いかと思います。  
対象を決めずに出す賞なら
  - ・みんなで一つ大賞（みんなの力で一つのものを目指す取り組み大賞）
  - ・こんなにたすけ合い出来たで賞アワード・表彰の枠組みを決めるとしたら、その枠組み毎の名称が良いと思います。
  - ・高齢者支援アワード
  - ・子育てアワード
  - ・防災アワードなど
- 未来につなげる協働アワード
- コラボ・オブ・ザ・イヤー 2●●●
- まちづくりネットワーク

5. その他アイデア（応募方法、周知方法、審査方法など）があれば記入下さい。

- 応募は、該当者から応募されるケースが少ないので表彰基準を設ける共に、候補者選出の準備会等を設け、候補者を選出する。その後、表彰審査会で審査する。
- 準備会での選出以外にも候補者はあると考えられるので、関係機関に文書で周知する。
- 審査方法は審査委員会を設置する。
- 各自治会から誰か担当していただける役員等を招集し説明会を行い、その必要性和重要性、その上でのアワードの意味合いを理解していただく場を設け、自治会からも啓発していただく。まち協・社協等既に町の草の根的活動をされている団体からも広報活動をしていただくCATVも活用（映像だけでなく、加入者へのメール・音声メッセージを流すなども）
- 周知方法、自治連の会合、町協の会合などで、紹介。ユニークな方法があれば、最高かな。
- 審査は、じかに活動を見る。（成功途中でも応援したくなる所にも賞を！）
- 応募方法：他団体等からの推薦
- 応募方法：推薦部門と自由部門
- 周知：インターネット他
- 審査：マスコミを利用

平成27年度よりスタート

# (仮称)東近江市いきいき協働アワード

～市内で実施された協働事例を表彰します～

※今年度から実施するのではなく、平成27年度より実施するものとします。市民協働推進委員会にてしくみを丁寧に議論し、次年度に向けて進めていきます。

## ○趣旨・目的

協働によるまちづくりを推進するため、市内で協働により実施されたプロジェクト・活動・行事・制度などの優良事例を表彰し、市民及び行政の協働のきっかけにつなげることを目的に（仮称）東近江市いきいき協働アワードを開催する。

○実施 平成27年度より

○周知 平成26年12月6日（土）開催の「東近江市市民活動推進交流会」にて実施を発表し、その後、周知していく。

○第4回市民協働推進委員会にて以下のことを検討していく予定です。

- ・ 名称
- ・ 賞、部門
- ・ 対象（どのような事例が対象か、対象期間はどうか など）
- ・ 表彰日
- ・ 応募方法
- ・ 審査方法 等

## 東近江市のラウンドテーブルの在り方について（案）

## 【協働サポーターの設置】

市民の声を拾い、市民からの相談を共有し、地域の皆で解決策を検討するために協働サポーターを設置する。

## 【しくみ】

趣旨を理解し登録した協働サポーターが連携して、市民の声を拾い、市民からの相談を共有し、解決に向けて協働ラウンドテーブルを開催する。事務局及びまちづくり協働課は、必要に応じて協働サポーターの支援（アドバイス、開催補助）を行う。また、協働サポーターから寄せられた市民の声（困りごと、地域課題）、協働ラウンドテーブルの内容（開催、結果）については、誰でも共有できるようにデータベース化する。

協働サポーター：趣旨を理解する市民等 ※下記の間接支援組織から1～数名

※行政職員も可

中間支援組織：各地区まちづくり協議会（各地区コミュニティセンター）、社会福祉協議会、NPO法人まちづくりネット東近江、東近江アーバンデザインセンター準備会

## 【協働サポーターの役割】

- ①市民の声（困りごと、地域課題）の報告
- ②協働ラウンドテーブルの開催の報告
- ③協働ラウンドテーブルの結果の報告

※協働ラウンドテーブルの開催する際に、中間支援組織や行政が必ず同席する必要はありません。ただし、地域の課題や動きが見える化（データベース化）していきたいので、報告（開催、結果）だけは必ずして頂きます。また、事務局及びまちづくり協働課は、下記のとおり協働サポーターを支援します。

## 【協働サポーターへの支援】

- ①研修及び情報提供
- ②協働ラウンドテーブル開催に向けての支援（人の紹介、進行役の派遣等）
- ③その他必要な支援

## 【事務局】

NPO法人まちづくりネット東近江

※市民活動団体や各地区まちづくり協議会からの相談に応じるなど、中間支援組織として確かな実績を積み上げてきていることに加え、多くの団体と協働にて事業をされており、東近江市より市民活動支援業務を委託されているため。

※まちづくり協働課と連携しながら行う。



## 【協働ラウンドテーブル開催までの流れ】

### ①協働サポーターが地域課題を把握及び共有する

- ・市民は、困りごとを1人で抱え込まない【協働サポーターに相談できる】
- ・協働サポーターは、市民（個人、団体）の困りごと（地域の課題）の声を吸い上げる【声を拾う】
- ・協働サポーターは、地域の課題を共有する【課題を見える化して、共有する】
- ・市民及び協働サポーターは、協働事業を提案（市民提案、行政提案）できる【提案できる】



### ②地域で課題となっているテーマを設定し、協働ラウンドテーブルで話し合う

- 地域で課題となっているテーマを設定する【課題を設定する】
- 関係者や興味のある人が一緒になって解決策を話し合う【地域の皆で考える】
  - ※話し合う場として、**協働ラウンドテーブル**の開催。
  - ※テーマの設定は、協働サポーター又は事務局が行う。
  - ※地域で自発的に協働ラウンドテーブルが開催されるのが理想。
  - ※行政が入っている必要はない。
  - ※協働ラウンドテーブルのルール

1. 2時間以内の会議とします。
2. 議論は全員参加で話をやりとりする。
3. 解決策を決めなくても良い。
4. 決まった内容について強制はせず、希望するものが実施する。
5. 知り得た個人情報には外に漏らさない。
6. 身分や立場に関係なく全員が平等の意識を持ちましょう。
7. 良い雰囲気づくりを心がけましょう。
8. 参加者の発言をきちんと聞きましょう。
9. 参加者の発言を批判せず、尊重しましょう。
10. 楽しみましょう。



### ③結果の公表及び解決策（協働事業や各種連携等）の実施

- ◎解決策（協働事業や各種連携）の実施
- ◎話し合った内容の公表
- ◎明るい未来をつくる

#### ※参考

東近江市協働のまちづくり条例 第2条より  
市民とは・・・市内に在住、在勤又は在学している個人並びに市内で活動している市民活動団体及び事業者をいう。

# 東近江市のラウンドテーブルの在り方について(案)

## 協働サポーターを設置する

### 【協働サポーターの役割】

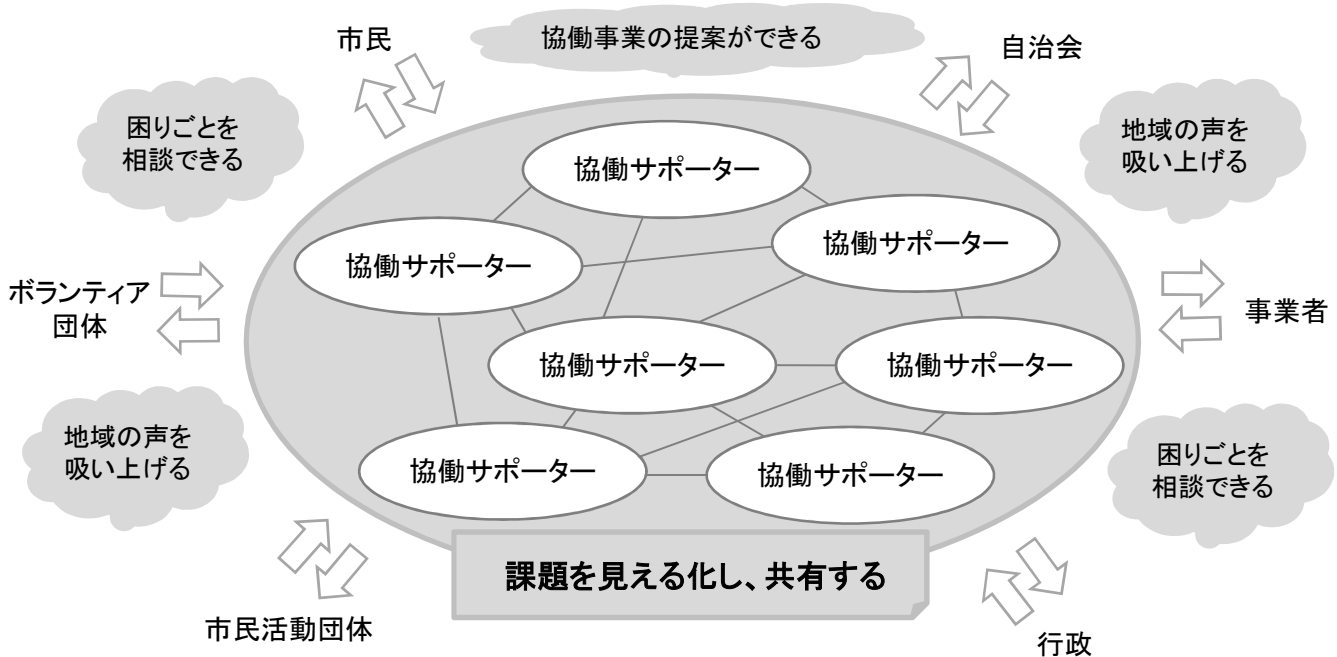
- ①市民の声(困りごと、地域課題)の報告
- ②協働ラウンドテーブルの開催の報告
- ③協働ラウンドテーブルの結果の報告

### 【協働サポーターへの支援】

- ①研修及び情報提供
- ②協働ラウンドテーブル開催に向けての支援  
(人の紹介、進行役の派遣等)
- ③その他必要な支援

## ①協働サポーターが地域課題を把握及び共有する

※地域の課題をストックしていき、ネットワーク内で見える化する。

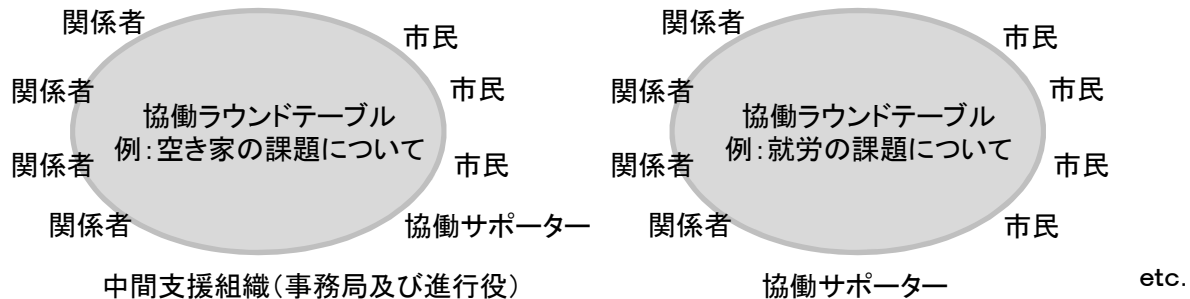


## ②地域で課題となっているテーマを設定し、協働ラウンドテーブルで話し合う

※関係者や興味のある人が集まって、解決策を話し合う(会議は事前公表)。

※地域で自発的に協働ラウンドテーブルが開催されるのが理想。

※行政が入っている必要はない。



## ③結果の公表及び解決策(協働事業や各種連携等)の実施

※プロセス及び最終結果を公表。

※解決策(協働事業や各種連携)の実施。

協働ラウンドテーブルの開催や結果についても事務局に報告し、データベース化し、共有できるようにする。